

【授業科目】看護学概論

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
草野 純子	1年次前期	必修	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)	<p>授業概要／本科目は、看護学の土台であり、看護学を履修する学生が最初に学修する専門科目である。具体的には、看護学の発展の歴史の変遷を踏まえ、看護学の主要概念である人間・健康・生活（環境）・看護について、広い視野から学ぶ中で看護に対する見方や考え方を育む。また、そうした学修を通して、健康障害をもつ対象への理解を深め、医療従事者としての実践の基盤となる個々の考え方を育む。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／1. 授業終了後の質問疑問についてリアクションペーパーを提出。次回の授業で解答解説を行う。2. 「私がつけている看護のイメージ」ナイチンゲールの著書、「病いの体験を読んで」のレポートについては全体の総評コメントを講義内もしくは掲示にて公開する。</p> <p>*実務経験を持つ教員が授業を進める</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①看護の歴史的背景と看護の概念、看護の定義について理解できる。 ②専門職としての看護組織、看護実践の基準について理解できる。 ③健康の概念、健康と病気のモデル、健康と病気に影響する要因、健康増進と病気の予防について理解できる。 ④看護の対象（統合体としての人間の特性、健康障害をもつ対象）のとらえ方について理解できる。 ⑤保健医療福祉システムおよび看護の役割について理解できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>1. 第1回の事前課題（レポート）「私がつけている看護のイメージ」についてまとめ授業後提出する。（事前30分） 2. 第2～15回：授業計画に示された内容に即して、下欄の参考書および図書館の文献を活用し、事前学修をすること。（予習各30分） 3. 授業後の解説を聞き、疑問点を解消しておく。（事後10分） 4. 第2～4回：ナイチンゲールの「看護覚え書き」から随意的1章を読み意見をまとめ、提出する（60～90分）。 5. 第14回：配布された「病いの体験」の文献を読みレポートを提出する。（事後課題60分）</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 導入・ガイダンス：講義の目的・進め方、授業概要、専門職とは、看護の定義 第2回 看護の機能と役割（看護活動、実践科学としての看護） 第3回 専門職種としての看護組織、看護実践のための基準、看護サービスに対する評価 第4回 看護概念の変遷（近代以前・近代の看護：看護の発展の歴史をナイチンゲールの功績とそれ以後の変化をたどる。） 第5回 看護概念の変遷（現代の看護、21世紀に求められる看護） 第6回 健康の概念、健康と病気、健康と病気に影響する要因 第7回 健康の増進と病気予防 第8回 看護の対象（統合体としての人間の特性：生物学的側面、ニーズ、成長・発達） 第9回 看護の対象（個人、家族、コミュニティ、地域社会） 第10回 看護の対象（健康障害をもつ対象の理解：対象理解と看護アセスメントの視点、健康障害とその影響） 第11回 看護の対象（健康障害に伴う心理的特徴：病気の経過における対象の身体的・心理的・社会的側面の特徴） 第12～15回 保健医療福祉の概念、サービスの場の特徴、保健医療福祉システムにおける各職種の役割、保健医療福祉システムにおける看護の役割</p>							全て 草野
評価方法 評価基準	<p>課題レポート90%、授業態度10%で総合的に評価する。</p>							
教科書	<p>志自岐康子他編「ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論」メディカ出版 「国民衛生の動向」厚生労働統計協会</p>			参考書等	<p>フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書き」、現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」、日本看護協会出版会</p>			
学生へのメッセージ	<p>この科目は、看護を学ぶうえでの基礎となる科目です。予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学修が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学修をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学修を深めていきましょう。</p>							